



●ギャラリートークのコンセプト

11月30日(土)および12月1日(日)に、「令和6年度研究会大会」がオンラインで開催されます。色彩教材研究会に関する発表は3件であり、有意義な時間になるよう祈るばかりです。

今回は、「(試験的)色彩教材ギャラリートーク」について書きます。昨年度3月に「色彩教材研究発表会」を開催しましたが、その際には「研究発表」と「(試験的)色彩教材ギャラリートーク」の2本立てとしました。実際の開催を踏まえて、「研究発表」は全国大会と研究会大会に預け、今年度は「色彩教材ギャラリートーク」に絞るのも良いと考え、3月開催を念頭において企画を進めております。

色彩教材ギャラリートークは、研究会会員が制作・デザインした色彩教材を展示ショートプレゼンするという形式で、色彩教材の実物を眼で見て、手で触れて体験するのが目的となります。昨年度は8件の発表があり、体感することで色彩教材の本質の理解に繋がり色彩教材の意図・文化的背景・社会的背景・開発背景や方法など、より深い理解を求めようと自然発生的な議論に繋がりました。今年度は、さらに具体的な形にて企画を進めてみたいと考えております。(吉澤主査より：018)

●近松門左衛門の浄瑠璃の色名ー1

「新潮日本古典集成」近松門左衛門集から浄瑠璃の中に使われている色名の用例を拾い出してみた。

近松門左衛門は、承應二年(1653)、越前藩士の次男として生まれ、浄瑠璃の作者となった。

門左衛門三十一才の作品「世継曾我」は曾我兄弟の仇討ちを題材とし、その中に見られる、色の用例は次の如しである。

男物の色は「若むらさきの装束」、「白猪のむかばき」、「萌黄の裏打つ竹笠」、「褐布(カチン)の装束」、「白熊の敷皮」、「木賊色の狩衣」、「浅黄の厚総」。

女物の色は「緋無垢」、「黄無垢」、「うらは紅うら」、「白拍子」、「紅閨」。

肌色などは「顔をあかめ」、「黄なる涙」、「顔を打ち赤め」、「脛いと白く」、「黒髪の」。

「自然描写は「園生に植えしてくれないの」、「むらさきの一本ゆえの」。

その他には「ひた白の幕」、「赤沢山」、「黄泉」、「しらま弓」、「紫燕」、「白鷺」、「御所の黒弥五」、「黒金」、「翠帳」などがある。

赤、緋、紅の使い分け、萌黄と浅黄の使い分けが見られる。一方、青と緑の基本色名は出てきていない。(永田泰弘)

●大辞泉ひろいよみ 72ーけ

鶏血石：けいけつせき。中国産の印材。赤く美しい斑点がある。

蛍光：けいこう。螢の尾部から発する光。ほたる火。ルミネッセンスの一種。光あるいはX線・陰極線その他の放射線を当てられた物質から発する光あるいは放射線。

蛍光色素：けいこうしきそ。照射された光のエネルギーを吸収して発光する色素。蛍光染料などで、X線を可視光に変えるために用いる。

蛍光染料：蛍光を発する染料。青色・緑色・赤色などの蛍光を放つものがあり。黄緑色の蛍光をもつフルオレセインが代表的。

蛍光灯：照明器具の一。低圧のアルゴンおよび水銀蒸気中の放電によって発生した紫外線がガラス管内壁に塗ってある蛍光体に当たって発光するようにした放電灯。

蛍光塗料：蛍光体を顔料とした塗料。交通標識・看板などに用いられる。

蛍光板：蛍光体を塗った板。

蛍光漂白剤：蛍光染料で、染料そのものは無色であるが、繊維などに染色して青い蛍光を発し、黄ばみを補色によって打ち消し、白く見せる効果のあるもの。

*大辞泉：小学館発行国語辞典

(永田泰弘)